令和２年度

学　校　評　価　資　料

「あきた型学校評価」Do, Check

分掌　p.1～11

総務部　教務部　生徒指導部　進路指導部
特別活動部　保健衛生部　研修部　図書・視聴覚部
教育相談部　資格取得部　情報教育部

学年部 p.12～14

１年部　２年部　３年部

各教科 p.15～22

国語科　地歴・公民科　数学科　理科
保健体育科　芸術科(音楽)　英語科　家庭科

工業科 p.23～26

機械科　電気科　環境システム科　建築科

秋田県立由利工業高等学校

令和２年度

評価領域	総務部

重　点　目　標	学校行事の効率的な運営	P
現　　状	昨年度末から流行し始めたコロナウイルスによる感染拡大を防ぐため、ＧＷ明け過ぎまで学校の休業状態が続いた。その結果、年度始まりの始業式や入学式の日程から例年通りには行えない状況となっている。	
具体的な目標	各学年や分掌との連係を密にしながら学校運営委員会や職員会議等で調整をおこない、行事等の効率的な運営にあたる。	
目標達成のための方策	・各学年や分掌との連係を密にする。 ・話し合いの場を設ける。 ・調整を行う ・ウイルスの感染拡大防止を念頭に置きながら、行事などの効率的な運営にあたる。	

▽

具体的な取組み状況	コロナ感染拡大にあわせて行事の縮小や精選などを行い、効率的な運営につながった。	D
達　成　状　況	各学年、分掌の協力を得て諸行事を運営することができた。	

▽

自　己　評　価	（評価） B	（根拠）ワクチン接種が始まるというものの、これからもコロナの影響が考えられる。流行がおさまるまで気を引締めて学校行事の運営に努力し続ける。	C

↑
基準評価　Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
↓　Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・COVID19 による大混乱が抑えられただけでも良しと考えるべき。決して劣っているわけではない。 ・新型コロナの収束はまだ望めない状況にあるので引き続き万全の体制での運営をして欲しい。 ・効率的な運営とあるが、効率的とは何を求めているのか。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	来年度も学校行事にコロナの影響があることを考慮してかなければいけない。行事の精選や簡略化を考える場面もあるかもしれないが、生徒を一番に考えて各分掌と話し合ってより良い方向性を探っていきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	教務部

重　点　目　標	新指導要領に対応した年間指導計画等の書類を整備する	P
▽		
現　　状	現指導要領に基づいて現在の年間指導計画やシラバスが作られている。	
▽		
具体的な目標	１０月頃までに改定案を教務部内で検討し原案を作る。	
▽		
目標達成のための方策	・教務部内で原案を作成する。 ・職員会議に図り決定する。	
▽		
具体的な取組み状況	内部で構想をねる段階であった。	D
達　成　状　況	達成できていない。	
▽		

自　己　評　価	（評価） C	（根拠） 原案も作成することができなかったため。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） C	（意見） ・具体的な取組のエビデンスが見えず残念。次のサイクルに期待する。 ・早々の作成が望まれる。 ・活動を行ってください。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	来年度早々に取り組んでいきたい。そのためには余裕があれば年度が変わるのを待たずに、準備を進めていきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	生徒指導部

重　点　目　標	問題行動・いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底	P
▽		
現　　状	昨年は２件の懲戒処分とさまざまな問題が７件あった。 毎年、生徒間のいじめが数件発生しているが、幸い未然防止・早期発見・早期対応によって、どのいじめもすぐに解消している。ただし、表面には出てこないいじめがある可能性がある。	
▽		
具体的な目標	さまざまな情報発信や注意等で、問題行動が起きないように働きかける。 いじめの存在がアンケートではなく、本人からの訴え、教師の気づきによって発見できる学校の雰囲気・態勢をつくる。	
▽		
目標達成のための方策	・職員会議等で気になる生徒を全職員が共通理解し、全職員がアンテナを高くし、早期発見につなげる。 ・昼休み巡視を強化する。 ・ＳＮＳ等ネットパトロールの強化する。 ・いじめアンケートを実施する。	
▽		
具体的な取組み状況	・いじめアンケートを１度行った。 ・各学年部と連係を図り、情報を共有し対応した。 ・朝の登下校時や昼休み、及び授業中に生徒の様子を観察した。	D
達　成　状　況	アンケートから数件のいじめが発覚したが、いずれも学年部を中心とした対応で、ある程度解消している。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠） アンケートによって発覚したものについてはある程度解消されているが、引き続き継続した対応、観察が必要である。また、未然防止についても取り組む必要がある。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・自己評価は妥当である。取組の記録を残しているのだろうか。エビデンスが必要。 ・教師と生徒が気軽に話ができる環境作りを。 ・問題行動が起きないように働きかけるとありますが、具体的にどうするのですか。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	職員間で可能な限り情報を共有し、多くの目で生徒を観察する。全校集会やＨＲなど、可能な限り問題行動の未然防止について発信する。 生徒への指導、取り組みの記録は残している。 いじめについても、全職員で未然防止のための観察や、対応に努める。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ−１）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ−２）　　Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和2年度

評価領域	進路指導部

重点目標	就職希望者が主体的で効果的な進路活動ができるようにする。	P
▽		
現　　状	資料のPDF化で校内ネットワークから必要な情報を主体的に入手することができるようになった。一方、資料の見方や活用方法についてわからない生徒が多い。	
▽		
具体的な目標	作成したマニュアルを活用して企業研究ができる。	
▽		
目標達成のための方策	企業研究マニュアル及び資料活用マニュアルの作成、活用後の検証	
▽		
具体的な取り組み状況	企業研究マニュアル及び資料活用マニュアルを作成した。 3年生の就職活動には間に合わなかったが、2年生の企業研究活動にて活用できる。	D
達成状況	検証を3月実施予定の進路活動（2年生対象）で行う	
▽		
自己評価	（評価） A （根拠） 年度内に作成できた。	C
▽	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	（評価） A B A （意見）・次のステージはマニュアル活用度の評価だろうか?期待しています。 ・マニュアルの実用化に期待したい。 ・生徒さんの感想はどうですか?	C
▽		
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	活用終盤で生徒からマニュアルについて評価してもらい、得られた結果を改善に活かす。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	特別活動部

重　点　目　標	生徒が主体的かつ意欲的に活動する学校づくり。	P
▽		
現　　状	部活動の強化にともない、保護者・生徒の経済面での負担が重くなっている。	
▽		
具体的な目標	大会参加の手引の改定。	
▽		
目標達成のための方策	令和２年中に改定案を策定し、年度内に職員会議での決裁を得て、次年度より施行する。	
▽		
具体的な取組み状況	生徒会会計では、生徒への支給対象となる高体連主催大会の例示を適切なものに改めた。生徒会活動後援費では、支給の対象の定義をより一般性のある、簡潔なものに改め、様々な解釈の余地を残し混乱が生じないようにするなどの改定を行った。	D
達　成　状　況	内規の改定を進めて、年度内の職員会議に提案できるように準備が完了した。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠）内規改定は完了していないので。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・早めの完了を。コロナの状況を見て大会参加を検討して欲しい。 ・自己評価は妥当。工程表を共有しているのだろうか？ ・内規改定を完了してください。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善	・学校関係者評価後、内規改定が完了し、職員会議での了承を得た。 ・新型コロナの影響はまだ続くとみられるが、中止ばかりでは生徒の意欲が低下するので、感染防止に留意しつつも、生徒が大会参加できるような環境作りが必要である。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	保健衛生部

重　点　目　標	感染症防止対策と校内外の清掃の徹底。	P
▽		
現　　状	新型コロナウィルス感染防止対策は未経験である。清掃状況は概ね良い。ただ、行事の際の清掃やゴミの分別は徹底できていない。	
▽		
具体的な目標	感染症防止対策では、各学年・分掌との連携を密にし、策の徹底を図る。清掃では、年間を通して校内外の清掃計画を立てて実施する。	
▽		
目標達成のための方策	・4月　コロナ感染防止対策　・5月　ゴミの捨て方指導　・6月　自転車小屋のゴミポイ捨てチェック　・7月　モップ交換　・8月　学校周辺のゴミ拾い　・10月　校舎内外大清掃　・12月モップ交換　・3月　清掃用具点検と整備　・その他　各学期始業式と終業・修了式当日の大清掃	

具体的な取組み状況	４月５月　コロナ感染防止対策、５月　ゴミの捨て方指導　６月　自転車小屋のゴミポイ捨てチェック　７月　モップ交換　学校周辺のゴミ拾い　１０月　校舎内外台清掃　１２月　モップ交換	D
達成状況	４月５月はコロナ感染防止対策に全精力を費やした。その他の方策も、予定通り実施した。	

▽

自己評価	(評価) A	(根拠) 特にコロナ対策は、待ったなしで徹底的に行った。	C

↑　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) B A A	(意見) ・アルコール消毒、手洗い、うがいの励行、各自健康チェックを引き続き行って欲しい。 ・最も重要な活動。敬服します。 ・OK です。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	コロナ対策では、マスク・手洗い・換気の徹底を、保健委員会活動を通してゆるむことなくこまめに注意喚起を継続していく。清掃についても同様に、保健委員会活動を中心に徹底させる。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	研修部

重 点 目 標	授業力向上のための研修を充実させて研究集録・研究紀要の内容に生かす	P
▽		
現　　状	昨年度は１２月に授業研修会を行った。 様々な研修の参加者に原稿を依頼し内容的に充実した。 今年度も学校で日程を組んで実施する。	
▽		
具体的な目標	教務等と連携をとりながら、早期に授業研究会のテーマ等を設定する。 研修者への積極的な原稿依頼を行う。 初任者研修委員会組織を機能させる。	
▽		
目標達成のための方策	・授業研究会のテーマを早期に企画・立案する。 ・研究収録のテーマも合わせ、一貫性を持たせる。 ・企画は職員に周知しテーマを意識した研究・研修・調査などを依頼する	

具体的な取組み状況	校内研修、初任者研修、実践的指導力習得研修、中堅教諭等資質向上研修を進めている。また、校外研修を紹介している。	D
達成状況	・他分掌の協力を得ながら、各研修を実施することができた。 ・お互いに授業を参観し合う期間を設け、授業改善につなげることができた。 ・校外研修に数名の教員が任意で参加した。	
▽		

自己評価	(評価) B	(根拠) これから実施が予定されている研修がある。	C

↑　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B B A	(意見) ・なかなか時間がとれないと思うが、職員の資質向上のために研修会をどんどん行って欲しい。 ・ルーテンに陥らないための工夫をされたい。 ・各研修を実施している事が良い。	C
▽			

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	これからも先生達が積極的に各種研修に参加し、研修結果を生徒に還元できるように研修部としても体制を整えていきたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	図書・視聴覚部

重　点　目　標	図書館運営を充実させ、読書活動・学習活動の推進を図る。	P
▽		
現　　状	学校司書の積極的な働きかけにより図書委員生徒の活動が活発化し、昨年度は図書の貸出冊数が大幅に増加した。しかし、読書習慣の身についていない生徒も多く、普段本を読まない生徒へのいっそうの働きかけが必要である。	
▽		
具体的な目標	全校の７割以上の生徒に図書の貸し出しを行う。	
▽		
目標達成のための方策	・授業や進路研究における調べ物学習に図書館を活用する ・館外への情報発信の機会を増やす	
▽		
具体的な取組み状況	・国語の授業で１・２年生全員に各自１冊、本を紹介する課題を出した ・２年生の地歴の授業で修学旅行先に関連した図書で調べ学習を実施 ・校内ビブリオバトルを開催し、生徒同士で本を紹介しあった ・３年生の進路に関する調べ学習、面接対策等に図書館を活用した	D
達　成　状　況	・各教科・学年部・部活動等で図書館は活発に利用されていた。しかし館内での読書は多かったものの、貸出人数は生徒の７割に及ばず、達成できていない。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠）貸出人数の目標は達成できなかったものの、来館生徒数や図書館利用機会は着実に増えており、今後の貸出人数増加につながると考えられるため	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・生徒が興味の持てそうな本コーナーを設けるなど環境の再構成を行ってみたらどうか。 ・KPI が明確なところが好ましい。 ・目標（7 割）未達原因を把握してますか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	今年度も本コーナーを何度か企画展示していたが、興味を持った生徒だけが手に取るという状況だった。次年度はコーナーの本を積極的に選ばせ、貸出につなげるような働きかけを工夫する。また、今年度はコロナ禍の影響もあり、オリエンテーションで実際に図書を借りる作業を経験させるということができなかったので、次年度は実施する。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	教育相談部

重　点　目　標	指導に配慮の必要な生徒に対する組織的指導体制の構築	P
▽		
現　　状	昨年、教職員にとったアンケートから、不登校、授業中の態度、突発的な行動によるトラブル、さらに対応の方法がわからないことに苦慮している様子が見られた。生徒の授業中の態度（寝る、騒ぐ）や突発的な行動は発達障害的な特性に起因する場合もある。	
▽		
具体的な目標	・校内での定期的な情報共有と外部専門機関との連携によって指導に配慮の必要な生徒に対する対応方法を明確化する。 ・観察、アンケート調査等により、困っている生徒の早期発見に努める。	
▽		
目標達成のための方策	・生徒面接週間、保護者面談期間、エゴグラム、アンケート調査を実施し、生徒理解を深める。 ・特別支援教育に関する校内委員会の定期的開催 ・外部専門機関（ゆり支援学校、特別支援隊）、スクールカウンセラーと連携して、計画的な指導にあたる。	
▽		
具体的な取組み状況	・生徒面接週間　５／１１～１５ ・臨時休校後の「心と体の健康アンケート」 ・校内委員会の定期開催	D
達　成　状　況	コロナ禍による休校や部活動の大会の中止などによる精神的な不安感を学校再開直後のアンケートおよび面談によって解消させることができた。校内委員会も定期的に４回開催でき、困っている生徒の情報を共有した。	
▽		

自　己　評　価	（評価） A	（根拠）担任、学年部、養護教諭、教育相談部が連携して困っている生徒の情報を共有し、外部機関やカウンセラーとの連携をしつつ対応することができた。	C

↑
基準評価　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
↓　　B：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
　　C：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B A A	（意見） ・生徒に対する対応方法が明確化してきているのでそこから長い目で見ていって欲しい。 ・誇りを持って活動されており、好ましい。 ・OK です。今後も継続してください。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・今年度は個別の対応が中心だったが、今年度の研修の成果を活かして来年度は全体指導による生徒の精神的安定を図る方法を模索していかなければならないと考える。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）　Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）
Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）　　Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

あきた型学校評価

令和２年度

評価領域	資格取得部

重　点　目　標	資格取得に対する意欲向上を図る。	P
現　　状	『由工スタンダード資格編』が策定され，各科において資格指導が充実し，ジュニアマイスター顕彰受賞生徒が増えているが，国家資格など難易度の高い資格の取得率が低い。	
具体的な目標	各学科と連携し、ジュニアマイスター顕彰の受賞者が増えるような指導体制を構築し、受賞者３５名以上をめざす。	
目標達成のための方策	１．資格・検定試験の内容や日程などの情報発信 ２.個々の生徒の合格資格数やジュニアマイスターポイントの取得状況などを個々で把握し、データ管理を徹底させる。 ３．資格得点上位者を掲示する。 ４・ジュニアマイスター顕彰を実施する。	
具体的な取組み状況	毎年作成している資格取得データファイルで、シートの個人取得状況を効率良く把握できる個票シートやジュニアマイスター顕彰者の取得状況の傾向が理解できるシートを新たに作成し、担任や関係職員が閲覧できるようにした。	D
達成状況	ジュニアマイスター顕彰の傾向を資格取得データファイルにより把握した上で今後の指導を具体化できた。	

自己評価	(評価) B	(根拠) 担任や学科の教員らの生徒への取得を進めるような指導やジュニアマイスターを目指すための働きかけが少ない。	C

↑　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・生徒に意欲を持たせ、達成させて欲しい。 ・方策と取組が一対になっている方が説明として分かり易い。 ・目標が受賞者35名以上、達成状況も数字で具体的に！	C

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	具体的数値目標を定め、取り組みの具体化を図りたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］（Check-2）、A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	情報教育部

重　点　目　標	情報機器の円滑な運用	P
▽		
現　　状	各種情報機器について、不具合やトラブル等に対して業務に支障が出ない範囲で対応できているが、学校全体で共有している情報機器で、老朽化しているものや不足している機器がある。	
▽		
具体的な目標	情報機器のさらなる運用を目指すために、試験的に新しい機器を購入して利便性の向上を図る。	
▽		
目標達成のための方策	・情報機器の運用面について不具合等に速やかに対応する。 ・Web カメラ等の新たに必要な情報機器の導入を図る。 ・既存の情報機器の操作方法について機会をできるだけ逃すことなく実践を通して理解していただくよう対応する。	

具体的な取組み状況	・office のバージョンアップ作業を全職員の端末でほぼ完了している。 ・ソフト、ハードの両面において、適宜対応できている。	D
達成状況	・一部端末で office バージョンアップができないものがある。 ・情報機器の運用においては、ソフト、ハードの両面において操作方法がある程度浸透してきていると思われる。	
▽		

自己評価	(評価) B	(根拠) 必要な機会に情報機器を運用できるように適宜対応し、併せて今年度から来年度にかけてのハード面の更新に向けて検討をしている。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・世の中の情報関連スキルの範囲拡大は凄まじい。本質を見極めながら環境整備が必要だろう。 ・学習向上のために機器環境を整えて欲しい。 ・機器を購入することが目標にあるのは？？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	システム更新及び導入後の運用、配備について、実情に合わせて適宜定めていくことで利便性の高い学習環境としていきたい。また、必要性をに鑑みて機器の導入を提案していきたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	１　年　部

重　点　目　標	基本的生活習慣を身につけさせる。学習に対する意欲を高めさせる。	P
▽		
現　　状	今のところ規則正しい生活を送ることができている。しかし、体調不良を訴える生徒も一部に見られる。授業でのやりとりからは中学段階までの基礎知識が不足している生徒が多く見られる。	
▽		
具体的な目標	将来の目標の大切さを理解させること。その目標を達成するためには学習を含めた現在の生活習慣が大切なことを理解させ、時間の有効活用を意識した生活を身につけさせる。また、しっかりと自己管理できるよう、整理整頓運動チェック者数が毎回５名以下やスマホの指導、紛失及び盗難事故０を目指す。	
▽		
目標達成のための方策	・学年集会や学年通信等を通して意識の向上をはかる。 ・ＳＨＲやＬＨＲで担任による指導を行う。 ・各クラスの風紀委員等によるクラスへの呼びかけを行わせる。	
▽		
具体的な取組み状況	学年集会や学年通信を通じて、具体的な例を挙げながら意識の向上を図った。学習することが生活のリズムとなるように、朝学習を活用しながら宿題を出すなどして取り組ませた。総探や学年裁量の行事等では、生徒が発言したり活動する機会を多く持つようにした。	D
達　成　状　況	様々な進路活動を通して、進路意識を高めていることが進路希望調査によって知ることができた。朝学習からも、結果を出そうとして学習に取り組もうとする姿勢が身についてきているのが分かる。	
▽		

自　己　評　価	（評価） A	（根拠）進路を意識する姿や、学習に取り組む姿勢は生徒ごとに異なるが、それでも前向きに努力する姿が見て取れる。まだまだの部分は多いが、土台はできてきているなと感じている。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） A B A	（意見） ・明確な KPI のもと活動が展開されており、好ましい。自己評価は妥当。 ・生活習慣が整えば学習向上につながると思うので、指導の継続を。 ・継続してください。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	ＬＨＲや学年集会、学年通信を通じて、刺激を与え続けるとともに、生徒との会話や関わりを多くして関係作りをしていきたい。総探がなくなるので、ＬＨＲを有効に活用して、進路に対する取り組みを行いたい。また、インターンシップを活用して全生徒で結果を共有できるような活動もしたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	２　年　部

重　点　目　標	進路実現に向けた学習習慣の確立	P
▽		
現　　状	学習習慣について、まだしっかりと定着が図られていない場面が見られる。基礎力診断テストの結果についても改善が必要な生徒が見受けられる。	
▽		
具体的な目標	朝学習にしっかりと取り組み、リズムをつくり、授業に真剣にむかう姿勢を身に付けさせる。朝学習の課題へ取組の割合１００％を目指す。	
▽		
目標達成のための方策	・朝学習時の学年部見まわり ・朝学習の課題確認 ・学年集会やＨＲ担任からの指導	
▽		
具体的な取組み状況	ＨＲ及び、学年集会において、朝学習や授業の大切さを話し、取り組む姿勢の意識向上に努めた。登校時間を８：２５に設定し、学校全体で遅刻防止に取り組んだ。	D
達　成　状　況	意識は向上した生徒が増えた。また遅刻者が減ったことにより取り組む雰囲気ができつつあるが、まだ取組が真剣でない生徒も見受けられた。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠） ＨＲや学年集会における生徒の態度や進路意識はしっかりしてきている。遅刻者が少なくなり朝学習への取組意識も徐々に良くなっている。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） A A B	（意見） ・やや自己評価は厳しいのではないか？ KPI がどう変化したかである程度判断して良いのではないか？ ・遅刻防止の取組が良いと思う。 ・目標が数字（１００％)、達成状況も数字で！	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	進路指導を軸とした指導の成果がでてきている。４クラスで面談を実施したことや、ＨＲ等を通して生徒の取組意識が高まってきている。 進路指導部との連携を密にし、自己理解を深め、希望進路達成に向けて組織で対応していきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和　２年度

評価領域	３年部

重　点　目　標	社会に出るために必要な素養を身につけさせ、自己の進路目標を達成させる。	P
▽		
現　　状	これまでの学習活動の結果、生徒の進路意識は向上しているが、社会情勢を見ると景気の先行きが不透明であり、進路目標達成にはさらなる意識の向上が必要である。	
▽		
具体的な目標	年度内に進路決定１００％を目指す。	
▽		
目標達成のための方策	・由工スタンダード生活編の徹底 ・進路面談の充実と進路指導部、保護者との連携強化、情報の共有	

具体的な取組み状況	・担任を中心に生徒面談や三者面談を適宜実施し、情報の共有化を図った。 ・適性検査や面接等に向けて対策補習等を実施した。	D
達成状況	１２月末までに希望者全員の進路先が決定した。	
▽		

自己評価	(評価) A	(根拠) １２月末までに希望者全員の進路先が決定した。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・良好であり、活動に敬意を表する。 ・進路決定は努力の賜物だと思う。今後は社会人としての意識を向上させて欲しい。 ・何が目標達成の要因でしたか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	３年生の早い段階で自己の進路目標を設定させたり、目標達成に向けて準備させるために、１年次だけでなく２年次でも定期的に進路について考えさせるはたらきかけが必要である。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	国　語　科

重　点　目　標	基礎・基本的な漢字力・語彙力の定着を図る	P
▽		
現　　状	漢字力・語彙力不足から、文章の読み取りを苦手とする生徒が多い。このことが就職試験作文や大学入試小論文を書く際の苦手意識につながっている。	
▽		
具体的な目標	漢字や語彙の学習に取り組む姿勢を授業で養い、家庭学習や読書を促すことで、漢字力・語彙力を定着させる。毎週の確認テストの合格者を７０パーセント以上とする。	
▽		
目標達成のための方策	・漢字問題集、国語常識問題集の有効利用を図り、毎週確認テストを行う。 ・図書館の本や資料の有効利用を図る。	
▽		
具体的な取組み状況	漢字や国語常識問題集を活用した確認テストを予定通り実施し、成績不振者には事後指導を行っている。図書部と連携し、１・２年生に図書館の本を利用した本の紹介文を書かせ、夏休み課題として提出させた。	D
達　成　状　況	確認テストの合格者は、全体として７０％には達していないが、昨年度より合格率が高い。特に一年生が頑張っており、今後の語彙力の定着が期待される。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠） 課題の提出状況や確認テストの結果を見ると、意欲のある生徒は増えている。しかし、全体として合格者７０％以上には達していない。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・自己評価は妥当。上向きなので継続に期待したい。 ・読書の習慣が向上につながると思うので方策を。 ・具体的に〇％の達成状況ですか？目標の数値化は OK です。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	確認テストの合格率はクラスによって差があるが、全体として５０％前後であった。来年度も確認テストは行うため、７０パーセント以上の合格を目指し、継続して指導していきたい。また、来年度は図書部との連携さらに密にして読書活動を行い、提出物を目に見える形で評価していきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	地歴公民科

重　点　目　標	基礎基本の定着を徹底し、今後主権者として活用する知識・能力として資料活用能力と様々な社会事象に関して自分の意見を持ちそれを表現する力の育成を重点的に取り組む。	P
▽		
現　　状	・正確な知識が定着していない。 ・地図や年表、グラフの読み取りも苦手にしている生徒が多い。	
▽		
具体的な目標	1)基礎基本の定着～小テストで、毎回全員が合格する。 2)資料読解能力の育成～６割の生徒が、定期考査の資料読解問題で正解する。 3)表現力の育成～８割の生徒が、年度末の自己評価において自分の作文の技量が向上していると評価できる。	
▽		
目標達成のための方策	1)用語や基礎知識に関する小テストを定期的に行う。 2)授業中に定期的に資料（年表、地図、史料、グラフ、図など）を読解する時間を設ける。 3)定期的に自分の考えを表現する時間を設け、評価をしてフィードバックすることを繰り返す。	
▽		
具体的な取組み状況	・地理Ａでは、世界地図の小テストを行い、評価に反映した。 ・世界史Ａでは、特に２学期以降、プリント学習において地図や絵の読み解きから当時の状況を理解する設問を掲載した。 ・日本史Ａでは、京都の歴史的建造物等を調べ、スマートフォンアプリを用いてまとめ、発表する単元をもうけた。	D
達　成　状　況	世界史Ａではプリントを毎時間評価して返却した結果、因果関係に留意して設問を解き、自分の言葉で書けるようになってきた。資料読解問題も７割以上の生徒が正解できるようになった。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠） 授業での評価を通じて、生徒の能力、技量が向上していることは把握できたが、その点について自己評価させなかったため。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・活動による向上が認められる。継続されたい。 ・スマホアプリの活用が良いと思った。生徒の興味関心にあった授業の展開を。 ・目標達成のための方策３）評価をしてフィードバックすることを繰り返す⇒どこまでできていますか	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・次年度は、評価のフィードバックにルーブリックを示し、生徒の能力の向上を「見える」化する方法を考えていきたい。 ・電子黒板とタブレットの効果的な活用方法を試行錯誤していきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	数　学　科

重　点　目　標	生徒の学力に応じた指導の充実	P
▽		
現　　状	生徒個々の学力において、基本的な計算力及び数量的な感覚が不足している生徒が増加してきている。数学への苦手意識の原因となっていると考えられる。	
▽		
具体的な目標	生徒の間違いや気づきなどを生かしながら、計算過程の進め方を具体的に丁寧に確認する。 授業時間内における生徒の演習量を確保する。	
▽		
目標達成のための方策	教科書、副読本への取り組みを促す。 ・単元ごとに演習時間を設定する ・考査は一定量を教科書、副読本から出題し、併せて提出物課題として評価に組み込む	
▽		
具体的な取組み状況	副読本を中心に演習時間を確保した。 ・考査対策の問題演習を補習授業として行った。 ・考査は提出物である課題を中心に出題し、振り返り課題とした。	D
達　成　状　況	課題提出の重要性を理解し、授業時間内での取り組みも課題完成への貴重な時間であると考える生徒が出てきているように思われる。一方で家庭学習時間が減少しているのではないかと思われる。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠）授業時間内の演習で課題提出率は向上している。考査前の指導では基本事項の定着が不十分であることが確認できた。考査の結果からの振り返りは指導していきたい。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・特効薬は考え難いので、継続的な活動を願いたい。 ・生徒の気づきを生かしながら少しずつ苦手意識を取り除いて欲しい。個々にあわせた指導を。 ・演習陵をどこまで確保するのですか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	継続して生徒の間違いの原因や気づきに注目して拾い上げ、それを共有していく場面を大切にする。演習量については、講義時間をできるだけ短くして、副読本に取り組む中で学ぶ形としていきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	理　　科

重　点　目　標	科学的現象への関心向上、更なる理解への基礎力定着	P
▽		
現　　状	入試段階から理科を苦手とする生徒が多い。実験を行うと興味関心を示す生徒がほとんどであり、積極的に参加する。しかし、「面白い」だけで終わり、何故そうなるのかを考えるまでにはなかなか行き着けない。数学的な基礎力もかなり不足している生徒が散見される。	
▽		
具体的な目標	基礎的な内容を身につけさせ、各学期毎の欠点保有者数を各クラスの１割以下にする。	
▽		
目標達成のための方策	・単元毎の実験に加え、演示実験や実物を呈示、ＩＣＴの活用をすることにより、興味関心を引き出す。 ・問題演習や小テスト、受験問題を引用した宿題を通した様々なアプローチで、内容の定着を図る。成績上位者の知的欲求も満たす。 ・基礎知識不足の生徒を早い段階からピックアップし、放課後等を使って指導する。	
▽		
具体的な取組み状況	ＩＣＴを活用し理解が進むようにした。問題演習や演示実験を通して問題を解く力をつけるように取り組んだ。欠点者に対しては長期の休みにフォローをし、また、上位者に対しては大学受験問題を宿題にするなどして意識の向上を図った。	D
達　成　状　況	目の前でインターネットから引っ張ったり、プリントを活用するなどして、理解が進んでいるように感じている。しかし、基礎的な計算能力が不足している生徒も散見され、定期考査の成績の伸び悩みがある。長期の休みでのフォローにより、定期考査に対する意識の向上はなされた。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	意欲の向上が今ひとつの生徒が散見される点や、おぼえて欲しいことの定着がなかなか進まない生徒がいること、定期考査の得点の伸びが今ひとつであることを改善したい。	C

↑
基準評価　　Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
↓　　Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・ICT 活用による興味関心の引き出しに期待する。徐々にでも成果が見えてくるのではなかろうか？ ・いろいろな方策で苦手意識を取り除いて欲しい。 ・欠点保有者数を一割以下にする⇒達成状況はどうなりましたか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	ＩＣＴの活用や、小テスト等、うまくいっていることは続けたい。学期ごとに長期休みでフォローしていたが、考査ごとのフォローをしていきたいと思う。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和　２　年度

評価領域	保健体育科

重　点　目　標	活動の主体的な計画、スポーツを楽しむ習慣と態度の涵養	P
▽		
現　　状	球技選択におけるグループノートを活用して授業の計画の立案、実践そして反省という流れの中で生徒は主体的に活動することができてきている。しかし、基本的な運動能力の低下などにより、技能の上達や活動を楽しむところまで到達しない生徒が増えている。	
▽		
具体的な目標	グループノートを活用し、主体的な活動にする。運動を論理的に捉える能力を育むために言語活動を大切にし、技能の上達をはかるべく個々の目標を持たせ、達成させる。	
▽		
目標達成のための方策	・１年次では、各種目の基本的な技術向上を図る。 ・グループノートの質の向上を図るため、体育理論との関連をはかる。 ・個々の目標を設定させ、達成のための手立てを考えさせる。	
▽		
具体的な取組み状況	新型コロナウィルスの影響で全学年のスポーツテストの一部とと１，２年の武道を中止した。２，３年生は積極的に授業に取り組んでいる。１年生はグループノートの活用の仕方や授業の取り組みについて、継続的に指導している。	D
達　成　状　況	一部グループノートの記録がルーズになったところが見られた。授業の計画、実践、反省という流れを習慣にするための継続した具体的な指導が必要である。	
▽		

自　己　評　価	（評価） B	（根拠） ある程度積極的に授業に取り組んでいる。一部グループノートの記録がルーズになった。技能の上達の面で課題がある。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・継続的な取組が、好ましい。COVID19 による影響は少なくないであろう。ご苦労が偲ばれる。 ・生徒の主体性を大切にした取組を。 ・グループノートの記録がルーズになったのはなぜですか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	グループノートの記録の仕方について、情報が足りず指導が不足したと認識している。生徒の主体性を尊重する部分と、教師が指導する部分とをバランスよく行い、授業の質を上げていきたい。生徒に個々の課題を設定させ、達成に向けた取り組みを定着させたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	芸術科　音楽

重　点　目　標	基礎・基本的な読譜力の定着	P
▽		
現　　状	１年生のほとんどの生徒が楽譜についてほとんど理解できない、もしくはゆっくりと時間をかけないと理解できないとしており、楽譜を読めるようになりたいと希望している生徒が多い。また、音楽表現の根拠となる音楽の基礎知識を定着させたい。	
▽		
具体的な目標	歌唱や器楽等の音楽活動を充実させるため、音楽表現の根拠となる音楽の基礎知識について学び、それらを活かし知識の定着を目指す。	
▽		
目標達成のための方策	・基本的な楽典の基礎知識を各題材に取り入れ習得させる。 ・実技を通して音楽活動と共に知識の定着を目指す。 ・より見やすく分かりやすくするため、プロジェクターなどのＩＣＴを活用していく。	

具体的な取組み状況	・知識を使った音楽活動を取り入れる。 ・一人ひとりまとめのテストを実施した。 ・パワーポイントを活用し、板書に動きをつけて進めた。	D
達成状況	・定着が図れていない生徒が一定数いるのが現状である。 ・反復練習するための手立てがまだ足りていないところがある。 ・板書の時間を指導や説明に当てることができた。	
▽		

自己評価	(評価) B	(根拠)実技で精一杯になってしまい、知識を活かせていないところが見られる。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・自己評価は妥当である。楽譜ソフトの使用をお勧めします。 ・少しずつ習得できるように繰り返し指導を行ってください。 ・基礎知識の習得はどうなりましたか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	ICT を使い、基礎知識の習得は向上したように感じるので引き続き継続していきたい。 スモールステップで、習得したものを実感できるようにしていきたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	英語科

重　点　目　標	英語でのコミュニケーション能力の育成	P
▽		
現　　状	・生徒が英語を話す場面が少ない。 ・英語を積極的に話そうとする生徒が少ない。 ・クラスによるが、リスニングが苦手な生徒が多い。	
▽		
具体的な目標	・教師の英語使用の割合を約５０％以上にする。 ・生徒の英語使用の割合を約５０％以上にする。	
▽		
目標達成のための方策	・間違いを恥ずかしがらずに積極的英語を話せるような雰囲気作りをする。 ・教師のみならず生徒にも英語を話す場面を多く設ける。	

具体的な取組み状況	総合的に英語力を向上させるためのモチベーションの一つとしてリスニング英語検定を実施。	D
達成状況	夏休み明けすぐにリスニング英検のための対策を講じることが出来ず、合格率も昨年と比べると下がってしまった。練習問題を増やす必要があった。	
▽		

自己評価	（評価） B	ＡＬＴの授業を通して積極的に発言する生徒が増えたことにより普段の授業でもきちんと考えてから発言しようとする姿勢が見られた。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・的確な反省点が挙げられており向上は大いに期待できそう。 ・英語にもっと親しめる為の言葉を。 ・目標割合５０％、達成状況は〇％？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	現状を改善するためには、分かりやく生徒のモチベーション上げる授業をする教師側の工夫も必要だが、生徒自身の根本的な学力と学ぶ姿勢がないと目標達成は厳しい。生徒の学ぼうとする意欲を期待する。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	家庭科

重　点　目　標	家庭生活に関わる基礎的・基本的な技術の習得	P
▽		
現　　状	被服に関する知識・技術面に苦手意識のある生徒が多い。また習熟度の差が見受けられる。	
▽		
具体的な目標	基本的な技術を習得し、生涯を通して衣生活・食生活を健康で快適に営むことができるように、手縫いやミシンの扱い方、調理などの技術を定着させる。昨今の状況を鑑み「マスク」を製作し基礎縫いをマスターさせる。さらに由工伝統である「トートバック」製作に結びつけ、意欲と完成後の成就感を味合わせる。	
▽		
目標達成のための方策	○実践的・体験的学習の充実を図る。（地域の食材や文化を盛り込む） ○写真や実物を用いる。 ○自己評価や進度表を活用し、各自に到達度を確認させる。 ○プリント類の点検をこまめに実施する。	
▽		
具体的な取組み状況	コロナ渦での授業のため、例年以上に手洗い等の徹底、献立の精選、調理過程等配慮した。「マスク」製作は基本的な練習にもなった。由工伝統のトートバックの製作は、ミシン等の設備、時数等を考え、半完成品のキットを使った。例年以上に意欲的に取り組むことができた。	D
達　成　状　況	被服系の製作物は全員完成させることができ、普段使いの生徒が多かった。調理系では家族と食べたいという生徒が多く、また、日頃の食事作りや弁当作りなど家族に対する感謝のことばを多く聞くことができた。	
▽		
自　己　評　価	（評価） B （根拠）全科とも実習はもちろん、授業に対しての意識・意欲も高いがさらに地域に目を向けるなどして自分の課題として捉え日頃の生活に役立てるような課題意識と解決能力がまだまだ物足りない。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） B （意見）・KPI が判らないので自己評価に準じたが、所感としては「A」でも不思議はない。 ・例えばマスクをご近所の方へ配るために作るとか…目標が向上につながる。 ・意欲的に取り組むことができた事が OK です。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	生活に関する基礎的･基本的な知識と技術を習得させるのはもちろん、自分の生活を見直し改善し、自立して生活するための意識をこれまで以上に養い、さらに地域社会や環境を見つめ、社会の向上に貢献する意識と態度を育てていきたい。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）
Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-1）　Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-2）
Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）

令和２年度

評価領域	機械科

重　点　目　標	資格指導の充実	P
▽		
現　　状	前年度末から今年度上半期にかけ、ＱＣ検定（一斉受検）や技能士（希望受検）その他の資格試験が中止になり、休校により指導機会も失われたため、今まで以上に計画的かつ柔軟な対応が必要である。	
▽		
具体的な目標	・一斉受検の資格においては、合格率７０％をめざす。 ・希望受検の資格においては、難易度にもよるが、８０％以上の合格率をめ	
▽		
目標達成のための方策	低学年に対しては翌年までの受験スケジュールの例を提示し、個別に声かけを行うことにより、チャレンジする意欲を高める。	

具体的な取組み状況	今年の３年生は受検機会が減ったが、他学年については計画どおり進めている。特に２年生は技能検定受検者が後期のみで３３名（機械加工と機械検査の計）と非常に多く、教える側も熱が入っている。秋からはものづくりマイスター２名（旋盤とフライス盤）に数回ずつ来てもらい、実技指導を受けた。技能士受検者が冬休み中も実技の訓練を続けられるよう、教員はその環境を整え、生徒の意識を高める工夫をした。現在、１年生に対しＱＣ検定（３月）の指導を行っている。	D
達成状況	クラス一斉受験のものは、初級ＣＡＤ検定（２年）７７％、計算技術検定３級（１年）９２％、パソコン利用技術検定３級（１年）８８％という高い合格率であった。３年の機械製図検定は、休校の影響で３名の受検にとどまったが全員合格。希望者対象の前期の技能検定（機械保全を含む）、ボイラー技士試験等はコロナ禍で中止。	
▽		

自己評価	（評価） A	後期技能検定も良好な結果が期待できる。学科内で分担して質の高い指導を行い、生徒もそれに応えているといえる。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） A	（意見） ・良好な活動であり、敬服します。 ・引き続き指導を。 ・OK、生徒の意識を高める工夫をどのようにしたか。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	試験スケジュールや内容・難易度等について、分かりやすい資料を作成したい。また専門科目（座学・実習）を指導する際、各種資格との関連および学習の必要性（ニーズ）を常に意識させるよう授業を行っていきたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	電気科

重　点　目　標	・義務教育段階のつまずきのある１年生への早い段階での指導、専門教科の授業に対応できるよう支援 ・専門性の向上、就職に有利な電気工事系資格取得への挑戦	P
▽		
現　　状	・計算を苦手とする生徒が多く、式の変形など義務教育段階のつまずきのある生徒が多い。 ・継続して勉強することを苦手としており、資格取得への意欲が低い生徒が多い。	
▽		
具体的な目標	・第二種電気工事士（２・３年）　　合格率　７０％ ・第一種電気工事士　　合格率　５０％	
▽		
目標達成のための方策	・１年生では、電気基礎、情報技術基礎、工業技術基礎などの時間を活用し科目の内容と関連づけながら式変形など計算力を身につけさせる。 ・２・３年生では、専門教科の授業の他放課後補習、朝学習などを活用し取り組ませる。	

具体的な取組み状況	・放課後に筆記および実技対策を実施（二種） ・課題の提出および放課後補習を実施、実技補習は毎日実施（一種）	D
達成状況	・(二種)　１９／３３（３年生２名含む）　合格率 57.6% ・(一種)　２／７　合格率２８.6%	
▽		

自己評価	(評価) B	・例年と比べ実技での不合格者が多かった。筆記の計算問題を含め複線図の書き方など、基礎の定着が必要。	C

↑　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・妥当な自己評価であり、改善すべき点もある程度明らか ・基礎定着のための指導を。 ・原因が分かっているので、それに対して対策を実施してください。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	電気に関する基礎知識の定着を目指すため、繰り返し問題に取り組ませることで公式を活用できるように指導するとともに計算能力の向上を図る。定期的に確認を実施し事後指導を行いたい。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	環境システム科

重　点　目　標	ものづくりや化学分析、環境保全に必要な基礎的基本的な能力を育成する。	P
▽		
現　　状	・程度に差はあるが、多くの生徒が基礎学力・知識を身に付けていない。 ・環境問題や化学の学習に意欲的に取り組むことができない生徒がいる。 ・各種資格試験・検定の合格率が、全体的にみて以前に比べ低下している。	
▽		
具体的な目標	各種資格試験・検定の合格率 ・危険物取扱者　丙種:70%　、乙４:30% ・計算技術検定　２級:50%(２～３年生)、３級:100% ・ワープロ検定　準２級:70%、３級:80%、４級:90% ・情報処理、プレゼンテーション検定　準２級:60%、３級:80%、４級:100%	
▽		
目標達成のための方策	・理解力が不足している生徒に対しては、学び直しを含めた指導をする。 ・座学の学習内容との関連を重視した実験、実習を行う。 ・資格等で合格、目標達成感を持たせるため、受検を促すとともに補習等でサポートする。	

具体的な取組み状況	理解力・基礎学力が不足している生徒には、放課後の補習や週末課題などで指導をしている。資格受験対策として、模擬問題を使った指導や放課後の補習を行っている。	D
達成状況	・危険物取扱者 丙:23%、乙４:33%　　・計算技術検定　２級:7%、３級:63% ・ワープロ検定 準２級:100%、３級:81%、４級:100% ・情報処理検定　２級:73%、準２級:67%、３級:55%、４級:100%	
▽		

自己評価	(評価) B	(根拠) 目標値に達したものがある反面、大きく届いていないものもある。また、これから受験する検定もある。	C

↑　　A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
基準評価　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓　　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・目標設定数値を見直すのも一策か？ ・今後の受験に期待してます。 ・丙種７０%⇒２３%原因を理解していますか？	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・生徒の希望を踏まえながらも、実態に合った資格や検定試験を受験するように促すとともに補習の体制を整える。 ・学力向上対策委員会と連携し、基礎学力の定着に取り組む。	A

P：目標の設定（Plan）、D：実践（Do）、C：実施状況の中間把握（Check-1）
C：自己評価［年度末の評価］(Check-2)A：改善方策の実践(Action)

令和２年度

評価領域	建　築　科

重　点　目　標	実技系科目における基礎・基本の定着	P
▽		
現　　状	中学までの学習内容の初歩的な部分までも理解できていない生徒も複数名いるほか、入学時点から建築に関心の低い生徒も増えてきている。製図や実習などの実技を伴う場面で、指示を理解できない生徒も増えてきている。	
▽		
具体的な目標	・各科目において生徒の実態に即した指導方法に努める。 ・全員受験している資格について、合格率８０％を目指す。 ただし、難易度により危険物取扱者は５０％、初級ＣＡＤ検定は６０％とする。	
▽		
目標達成のための方策	・理解しやすい指導、時間内に完結する指導に努めるとともに、ＴＴで遅れる生徒や集中できない生徒に随時細かく対応する。 ・最低限提出期限を守らせる指導で、極端な遅れを防ぐ。	
▽		
具体的な取組み状況	・各時間ごとに進度の目標を提示して取り組ませ、なるべく当日のうちに作業の遅れに対して取り組ませる。課題を工夫して作業内容を減らし、時間内に出来るような内容へ変更・精選を進める。	D
達　成　状　況	・科職員内で実習や製図の各課題について、作業内容や作業工程を減らす課題の作成や提示の工夫を話し合って進めることが出来た。未提出や大幅な提出遅れはほぼ見られない。 ・計算技術検定３級・・・・・２７／３２　８４．３％ パソコン利用技術検定３級・２６／３２　８１／３％ 危険物取扱者丙種・・・・・　６／１５　４０．０％　17名は１月受験 初級ＣＡＤ検定・・・・・・３４／３５　９７．１％ 建築ＣＡＤ４級・・・・結果待ち　３３名受験 ＱＣ検定４級・・・・・これから　３２名受験予定	
▽		

自　己　評　価	（評価） A	（根拠）実習の製作や製図の課題について、実情を踏まえて例年行っている小規模な年次変更よりも大きな変更・改良を進めた。危険物取扱者についてはかなり難しい設定をしてしまった事によるが、それ以外について目標を達成できた。	C

↑
基準評価
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

▽

学校関係者評価と意見	（評価） A	（意見） ・良好な活動であり、敬意を表します。 ・今後も指導の継続を。 ・OK です。目標も達成状況も数値化。	C

▽

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	生徒集団は毎年変化していくことから指導方法は常に検討して工夫を続ける。特に、実習課題の精選と内容の工夫は特に今後も取り組んでいく。資格取得については、それぞれの検定に対して、数値目標を設定して取り組む。	A

Ｐ：目標の設定（Ｐｌａｎ）　　Ｄ：実践（Ｄｏ）　　Ｃ：実施状況の中間把握（Ｃｈｅｃｋ-１）
Ｃ：自己評価［年度末の評価］（Ｃｈｅｃｋ-２）　　Ａ：改善方策の実践（Ａｃｔｉｏｎ）